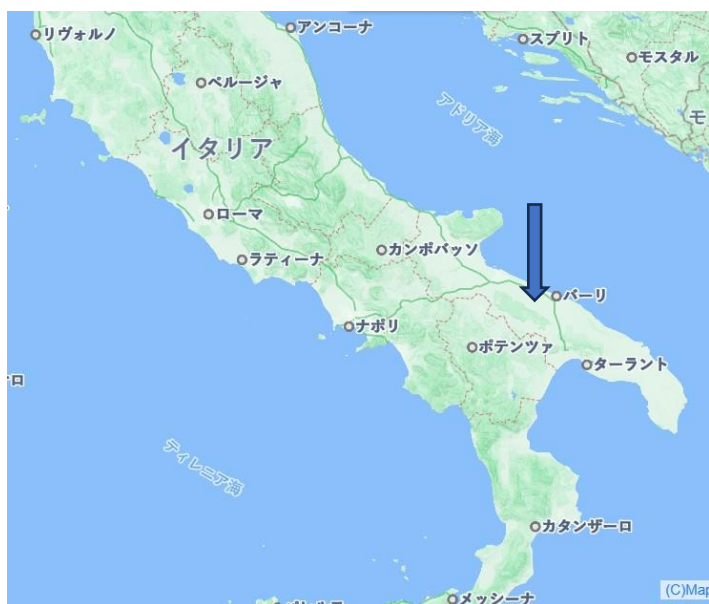


イタリアでの G7 会合と同国の政治（568号）

2024年 6月 石館

イタリア南部ファサーノで6月13－15日に行われた先進7か国首脳会議では、7か国唯一の女性リーダー、メローニ首相が議長を務めた。9日開票の欧州議会選で大勝し、EUの新たな主役として注目を集める。他の6か国の首脳が内政で苦境にあえぐのとは対照的に追い風に乗っている。



矢印の先が開催地ファサーノ。イタリアの高級保養地の一つで、多くのセレブが別荘を持っている。

メローニ首相は現在47歳、2006年に下院議員に当選、2008年ベルルスコーニ政権で若年対策担当相に30台で就任

2012年政党“イタリアの同胞”を結党

2014年、“イタリア同胞”

の党首に就任、2022年10月首相に就任

私生活では、7歳の娘を持つシングルマザー。サミット参加は昨年の広島に続き2度目となる。他の欧州首脳たちは目下、青息吐息の状態だ。英国のスナク首相は、7月4日に総選挙が迫る。同国では与党・保守党が、野党・労働党に約20ポイント差でリードされ、政権交代の可能性が高まっている。

フランスのマクロン大統領は、欧州議会選で与党が極右政党に大敗したのを受け9日に下院選の実施を宣言したばかりだ。今月30日の第一回投票では、またも与党低迷が予想される。任期3年を残して、レイムダックに陥る危機が迫る。ショルツ独首相が率いる中道左派与党も、欧州議会選で過去最低の得票率になった。カナダのトルドー首相は就任9年。16年の伊勢志摩サミット参加以来の最長老だ。来年秋までに行われる総選挙を前に、与党は支持率の低迷に苦しむ

岸田首相も支持率低迷にあえいでいる。追い詰められた今何を思うのであろうか。



今回の主役であるメローニ首相は、首相就任早々はウクライナの軍事侵攻を巡ってロシアへの制裁を強化する EU を批判してきたが、最近はその EU 諸国と同様制裁に同調している。また EU 唯一の中国の「一帯一路」に協力してきたが、イタリアにとって得るものが少ないと、メローニ政権はこの協力協定を破棄した。

2012年に右派政党「イタリアの同胞」を結党し、2014年に党首に就任。当時のドラギ首相の連立政権に主要政党の中で唯一参加せず、野党としての立場を貫いて政権批判を続けた。また EU の移民や難民への政策を批判し、自国第一主義的な主張を繰り返してきた。メローニは19歳の時イタリアの独裁者ムッソリーニを肯定する発言を行っていたため、メローニ首相がファシズムに傾倒しているのではないかと懸念がメディアや他党から出てきた

しかしこうした懸念を払拭しようと、メローニ首相は英語、フランス語、スペイン語で動画のメッセージを発信し「イタリアの同胞」が選挙で勝つと権威主義的な体制となり、ユーロ圏からの離脱に繋がるのではないかと報じられているのはばかげていると主張した。

メローニ首相はこれまで難民申請者に対し厳格な指導者を演じることで、何とか国民の注意が大規模な移民流入に向かないようにしてきた。しかし7月4日の総選挙で有権者にノーを突きつけられようとしている英保守党にこの戦略は通用しない。



伊首相、移民やAIで成果強調 G7サミット閉幕
会見（時事通信 ...

EU 各国政府は長年密かに大勢の外国人労働者を受け入れる一方、不法移民や難民申請者にはこれ見よがしの敵対的対応を取ってきた。

排外主義的な感情が高まってきたことで、この矛盾が拡大した。有権者に正直に説明する気はないが、外国人労働者を受け入れないと、自国の

産業が回らなくなるという現実政府の打てる手は殆どない。

メローニ氏は“二枚舌戦略”をうまく進めてきた。首相に選出された22年から25年にかけて、非EU出身者向けの就労許可証の発行枚数を2倍に増やす方針だが、今も世論調査で支持率が高い。同氏が率いる極右“イタリアの同胞”も欧州議会選で高い得票率を得た。

メローニ氏にとって幸いなのは、就労許可証の増加が少なくとも支持基盤から歓迎されているということだ。フランスやドイツなど他国のポピュリスト・反移民政党は経済の振るわない地域の若者から支持を集める。しかしメローニ氏の中核支持層は豊かな工業地帯が広がるイタリア北部に多い。現地の企業は競争力が高く、労働者を必要としている。

それでも同氏は移民問題で批判を浴びる。6月上旬、イタリアの就労ビザ制度が犯罪集団に悪用されていると認めた。

メローニ氏はこの2年の間にいつの間にか欧州の“陰の権力者”になってしまった。過去の歩みだけを見れば15歳で右翼団体に入った極右政治家と言える。就任当初は、欧州の他の極右勢力と同じように、彼女も反欧州連合やロシアとの融和に動くと思われていた。だが彼女の行動はまるで違った。

初の外遊先に選んだのは EU 本部があるブルッセル。昨年12月には移民・難民対策案を EU がまとめるのを助けた。ロシアのウクライナ侵略にも決然と反対し、米英独仏と結束する。メローニ氏はイタリアの保守政界を束ね、欧州議会で一定の勢力を築く。そのうえで EU 内で影響力を強め、独仏主導の EU 内での権力構造を変える。保守本流を意識するだけに、フランスの極右政治家ルペン氏らと同一視されることをメローニ氏はとても嫌がる。

11月に米大統領選でトランプ氏が当選すれば、NATO から離脱に動く恐れがある。そうなった場合一体だれがトランプを押しとどめるであろうか。トランプは欧州のエリートが嫌いであるが、極右出身のメローニなら相性が良いのかもしれない。もしかしたらメローニが欧州の救世主になるかもしれない。ただメローニも今はただ仮面をかぶっているだけで、いずれ極右の本性を現すかもしれない。

欧州で極右や保守強硬派がさらに地盤を広げれば、労働力不足がもたらす政治課題が一段と深刻になる。排外主義的な偏見に屈すれば、人手不足への対応が難しくなり、将来の欧州の成長力や競争力に禍根を残すことになるだろう。